

長年の功勞、功績に光 春の叙勲

平成十六年春の叙勲で、本町の平井俊榮さん（豊間根・七三）が教育研究功勞として瑞宝中綬章に、井上義一さん（中央町・七八）が保健衛生功勞として旭日双光章に輝きました。長年にわたり地域社会の振興に尽くしてきたその功績に、光が当てられました。



旭日双光章
〈保健衛生功勞〉

井上義一さん
(中央町・78歳)

今後も地域医療に力を

「叙勲の授章式後に皇居豊明殿で天皇陛下に拝謁する機会があり、身に余る光榮です」と、

感動の瞬間を語る井上さん。東北大学医学専門部を卒業後、総合病院などの勤務を経て、昭和

三十年、現在地に内科・小児科の医療を開業。長年にわたり地域の医療を支えてきました。昭和四十年から山田高校校医、平成元年から山田南小と大沢小の校医として学校保健の向上に取り組むほか、宮古医師会理事や県医師会広報委員を務めるなど地域医療に貢献しました。ニューヨークやコペンハーゲンなどの欧米諸国の視察を通じて高齢者医療の重要性を認識し、昭和四十九年に県内で五番目、沿岸初となる民間の特別養護老人ホームを開設。「介護士などの職が確立されていない状況での開業でした。入所する人がな

く、下閉伊、上閉伊管内や福祉事務所などを説明に回るなど苦労はしましたが、今はいい思い出」と当時を振り返ります。昭和四十年から町育英会理事を務めるほか、町漕艇協会会長や県漕艇協会副会長を歴任するなど教育やスポーツなどでも地域に大きく貢献してきた井上さん。今後の抱負について「これまで地域のために力を注いできたことが認められました。地域にとって人材育成や医療は一番大切なこと。今後もわたしを必要とする方がいる限り、地域医療の分野などで力を尽くしていきたい」と意欲的に話します。



瑞宝中綬章
〈教育研究功勞〉

平井俊榮さん
(豊間根・73歳)

地域住民に支えられて

「とても名譽なことです。支えてくれた地域の皆さんのおかげです」と喜びを語る平井さん。

昭和三十九年から平成十三年までの三十七年間にわたり、駒澤大学で教べんをとるほか、東京

大学文学部や早稲田大学大学院文学研究科などで講師を務めました。この間、仏教思想学会理事や日本私立大学連盟評議員などを歴任。昭和四十九年には、東京大学の文学博士を取得しました。平成一年からの三年間は、駒澤大学の学長を務めるなど教育の振興に貢献しました。昭和五十五年、共書「阿毘達磨俱舍論索引（I・II・III）」で、学術上特に優れた論文や著書などの研究業績に対して贈られる日本学士院賞を受賞。「なかなか頂ける賞ではありません。研究に携わった仲間のサポートにより研究を続けることができ

た」と当時を振り返ります。また、「法華玄論の註釈的研究」など多種の著書を通して教育研究に尽力しました。昭和五十四年に宝珠院の住職となり、東京と本町を行き来する生活を続け、平成十三年に大学を退職。東京から本町に住所を移し、住職ひと筋となった平井さん。「山田町民として受章でき光榮です。檀家や地域の皆さんのご理解とご協力により、住職になってからも大学に勤めることができました。地域の皆さんに喜んでもらえれば恩返しになります」と地域に支えられての受章に感激の面持ちです。